

神社仏閣とお酒 in Japan

この10年ほどのあいだに訪問した神社やお寺で撮影した、
お酒に関するスナップ写真をまとめた資料です。
(ed.4.2 2014.09+2015.01/03+2016.08+2017.02+2020.03/04+2024.07 /tk)

松尾大社@京都

- お酒の神様「松尾神社」の総本山。鳥居にぶら下がっている12本の榊(さかき)が珍しい。新年に新しい榊にするが、秋には写真のように茶色に枯れる。
- 全国の酒蔵から菰(こも)樽のお供えがある。写真のように、泡盛の菰樽や、洋酒の木樽もある。酒類全般の信仰を集めていることがうかがえる。小さな「お酒の資料館」もある。



京都の松尾大社

- 朝鮮半島から渡来した秦一族が松尾山を奉り、社殿を建立した年→「701年」

神社仏閣とお酒 in Japan

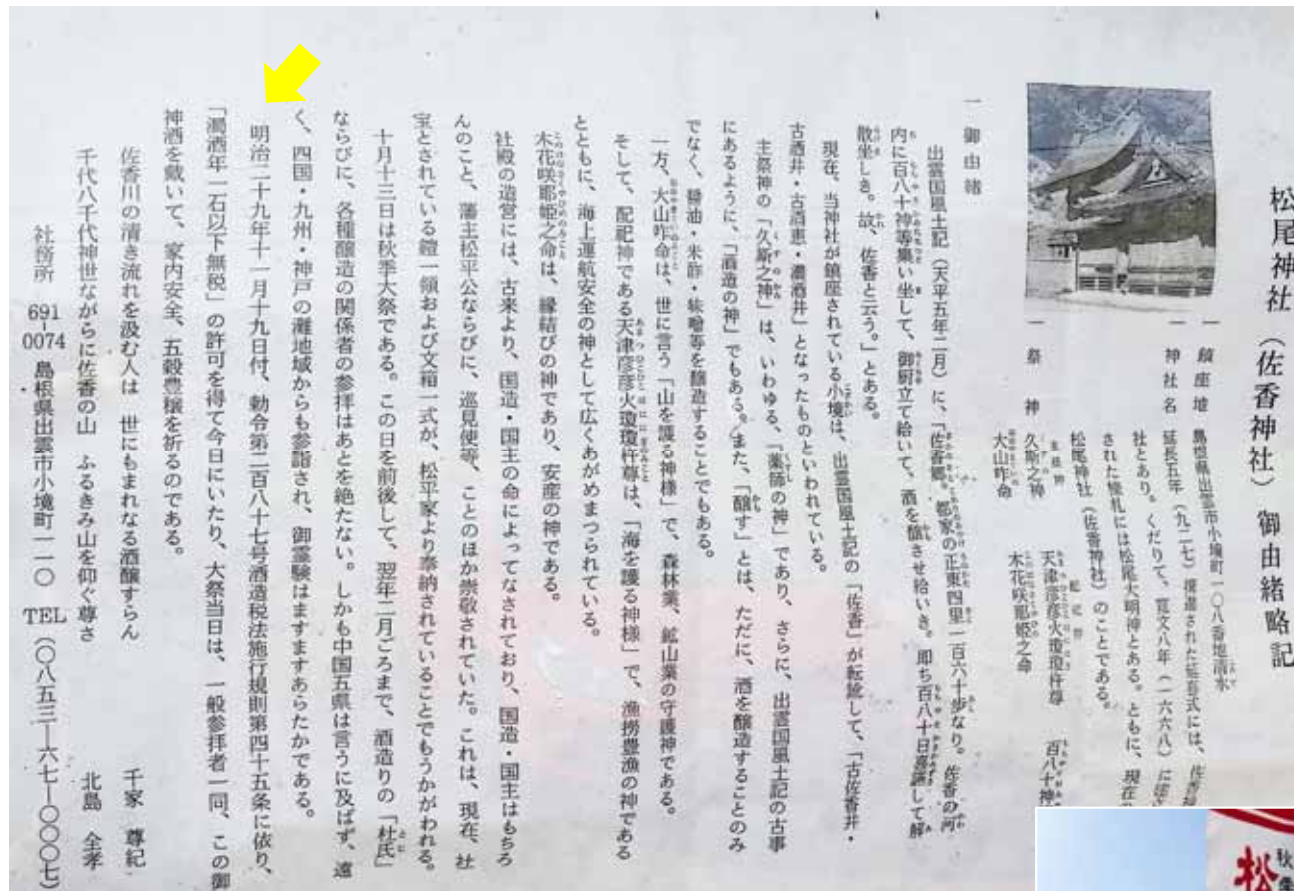
松尾神社(別名:佐香神社)@島根

- 案内板には「酒造り発祥の地」とある。「佐香」は「酒」。「出雲国風土記」(733年)に「佐香郷」が登場する。
- 出雲大社の近くにある神社で、左の由緒書きに「明治29年勅令287号云々により『濁酒年一石以下無税』の許可を得て今日に至る」とある。近代政府の正式免許下で100年以上、勿論それ以前から連綿と、御神酒を酒造している。
- タンクには「検定日平成25年6月云々」とある。造った酒は毎年10月13日に神前に供える。
- 今は九州だけに残る「灰持ち(あくもち)酒」が、昭和中ごろまで島根にもあったと聞いたことがあるが、この御神酒が灰持ちかどうかは聞き逃した。



島根の松尾神社

- 島根の松尾神社
- 「酒造り発祥の地」(案内板)
 - 佐香神社が登場(出雲国風土記)→「733年」
 - お祭り→「10月13日」
- 2



神社仏閣とお酒 in Japan

月讀神社@京都の松尾大社 月讀神社@長崎県の壱岐

月讀神社@京都



月讀神社@京都

picture source : Wikipedia



- 京都の松尾大社(1ページ)の南すぐのところ「月讀神社(つきよみじんじや)」がある。松尾大社の摂社の一つであるが、本尊は、はるか遠くの長崎県の壱岐(島)にある月讀神社。
- 2016年に壱岐に行く機会があって月讀神社を訪問し、初めて京都の松尾大社に分霊があることを知った。伊勢神宮の内宮・外宮にも月讀神社の分霊があるという、格式高い神社。
- 月讀尊は、天照大神の弟で、月齢を読む(数える)神。その昔は月齢を見ながら米作した。米はお酒の元。月讀とお酒の関係である。
- 壱岐は「神道発祥の地」ともいわれ、非常に多くの神社があるのだが、月讀神社はどちらかというと小さな社で、参拝者も少なくひっそりとしていた。本殿には清酒と焼酎が供えてあった。壱岐は壱岐焼酎(米麴で作るそば焼酎)の島であるが、社務所の女性に尋ねると、奉獻酒は清酒のほうが多いそうだ。やはり、神社は清酒なのだろう。

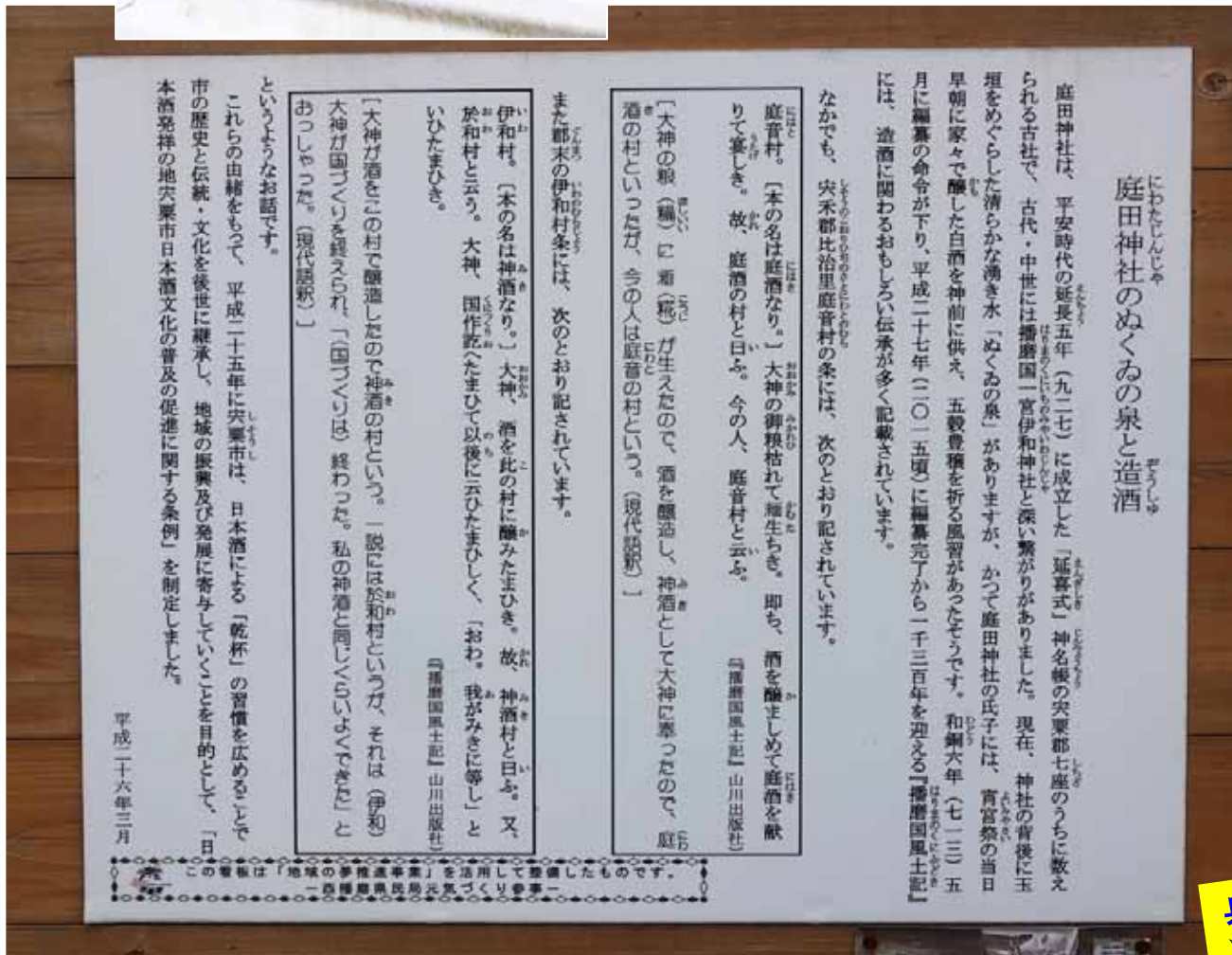
月讀神社@壱岐

picture source : Wikipedia





- 兵庫県宍粟市一宮町にある「庭田神社」は、近年「日本酒発祥の地」をアピールしていると聞いて、訪問した。ただ、現地ではそんな看板はなく、わずかに駐車場の看板にその旨書いてあったのみ。
- 「播磨国風土記」(和銅6年=713年に編纂の命)の中に、以下の記述がある。「大神の御糧(みかれい=米のこと)沾(ぬ)れてかび生えき、すなはち、酒を醸(かも)さしめて、庭酒(にはき)に献りて宴しき」意味は「大神に供えられた米飯が濡れたため、カビが生えてしまった。そこでその米を庭田神社の裏の「ぬくみ(ぬくい)川」で醸したところ庭酒が出来上がり、宴をおこなった」といったことで、麴による酒造りをさすのだそう。



- 左の看板には「庭田神社」で「庭酒(にわき)」ができ、(4kmほど南に下ったところにある)「伊和神社」で「神酒(みき)」ができた、宍粟市はこれらを鑑み、平成25年に乾杯条例、「日本酒発祥の地宍粟市日本酒文化の普及の促進に関する条例」を制定、とある。
- 下の写真が「ぬくみ(ぬくい)川」。川というより湧き水からの水路。



兵庫の庭田神社
 ➤ 「日本酒発祥の地」(駐車場の表示)
 ➤ 庭田神社が登場(播磨国風土記)→「713年」

神社仏閣とお酒 in Japan

春日大社の「酒殿」@奈良



- 春日大社と、その隣の東大寺大仏殿は、奈良の国際的観光スポット。春日大社本殿に隣接した西隣に「酒殿(さかどの)」がある。「檜皮葺き(ひわだぶき)」の屋根は2012年に葺き替えられたばかりで、まだとてもきれい。
- 看板には「750年の記録に初見、859年創建と伝えられる」「内部には大甕があり、現在でもここで濁酒を醸造してお供えする」とある。酒の神、酒弥豆彦神(さかみずおのかみ)と酒弥豆売神(さかみずめのかみ)が祀られている。
- インターネットで見ると、実際の醸造は奈良豊澤酒造(「豊祝」)が担当されているようだ。(「春日大社の式年造替にともなう行われていた酒殿の修復を終えて竣工を記念して、豊澤酒造の豊澤孝彦氏を招き、「日本酒発祥の地、奈良より誕生した南都諸白造り」という演題で記念講演が行われ、通常は見ることができない酒殿と竈殿の内部が公開された。」「近世までは、神人といわれる下級神職、酒殿家が代々酒造りをしていたが、明治以降、地元酒造会社の杜氏が酒造りをしている。現在は、豊澤酒造の代表、豊澤安男氏が春日酒殿預の役目をしていて、豊澤酒造が酒造りをしている。」「酒母造りまでを豊澤酒造で行って、原料が冷めないうちに酒殿に移動させて仕込みを行う。酒殿には豊澤酒造とは違う酵母があるので、豊澤酒造で最後まで造ったのとは違う、もっと甘みのある酒ができあがるという。酒殿で造られていたのは、白酒と黒酒だった。白酒は濁酒でアルコール分15.5度、日本酒度-28で相当甘く、黒酒は清酒でアルコール分14.6度、日本酒度+3で少し辛かった。」「

(<http://blogs.yahoo.co.jp/nyppy810/67802085.html>)



- 「酒殿」のすぐ隣には「竈殿(へついで)」があって、セットになっている。こちらは神饌(しんせん、煮炊きしたお供え)を作る場所。「酒殿」も「竈殿」も重要文化財。
- 写真は「竈殿」の軒下から「酒殿」を見たところ。



- 春日大社は境内の灯籠の多さがある。
- 奈良公園からの参道には「焼酎蒸溜業」という石灯籠が。企業名、年代などは読み取れない。

奈良の春日大社の酒殿(さかどの)
➤ 記録の初見→「750年」

神社仏閣とお酒 in Japan

春日大社の「酒殿」@奈良



直会の場で盆に社醸酒を受けられる信徒



内院で行われる午の御酒式



酒殿内での醸造の様子



酒殿 廊の左右に櫓が立てられ注連縄が張られる

この酒殿は寛永九年（一六三二）に建立された現存日本最古の酒殿とされ、檜皮屋根にある建出し（越屋根）と連子窓が特徴で、国の重要文化財に指定された唯一の酒殿です。創建については、奈良時代『続日本紀』の天平勝宝二年（七五〇）二月十六日条に、孝謙天皇が春日酒殿に御幸されたところから、当社御創建の神護景雲三年（七六八）以前、まだ御蓋山に祀られた春日の御祭神を饗の神地からお祀りしていた時代、神を祀る社殿に先立つて酒殿が既に建てられていたと考えられます。

酒殿



祖恵器残片(奈良～平安初期)

日々の神社のお祭には日本酒は欠かせませんが、お祭の締めくくりに直会では、神前からお神酒をお下げて参列者が共に頂戴し、神様と人の御神縁と、人々との御縁を深めます。

お酒は日本人の主食である大切なお米を発酵させて造られますが、昔の醸造は麹菌や酵母菌の働きを自然に任せることが多く、お酒の出来映えがよくなる様にお祈りし、厳重な清潔のもと醸造が進められました。特に祭礼に用いるお酒を御神酒といい、神社境内で醸される事が原則で、江戸時代までは各地の神社に酒造が設けられていましたが、明治以降は酒税の関係で醸造許可を受ける必要があったため、境内で酒造を行う神社は少なくなりました。春日大社では外院・大宮を囲む廻廊の西側に建つ酒殿で今も連綿と酒造りが行われ、醸された御神酒は春日祭で献じられています。

春日の御神酒 — 酒殿で醸される「宿酒」 —



- 春日大社の会報「浄」の2023年夏号にあった、酒殿の「一宿酒」（ひとよざけ）の記事。
- 現存日本最古で、重要文化財に指定される唯一の酒殿であること、神を祀る社殿より先に酒殿が建てられたこと、江戸時代まで酒殿姓を名乗る神職が酒造りをしていたこと、などが書かれている。酒造プロセスの詳細については書かれていない。
- 3月11日の「午御酒式」（うまのみさけしき）、13日の「申祭」（さるまつり）で、御神酒を奉納する作法の記述がある。「酒樽」（しゅそん、木製？）に入れた「一宿酒（社醸酒）」だけでなく、「缶」（ほとぎ、素焼き？）に入れた「清酒（外部調達）」も併せてつかう。（春日大社の酒造免許は「その他の雑種」なので、清酒は自社では醸造できない）

神社仏閣とお酒 in Japan

三輪大社(大神-おおみわ-神社)@奈良

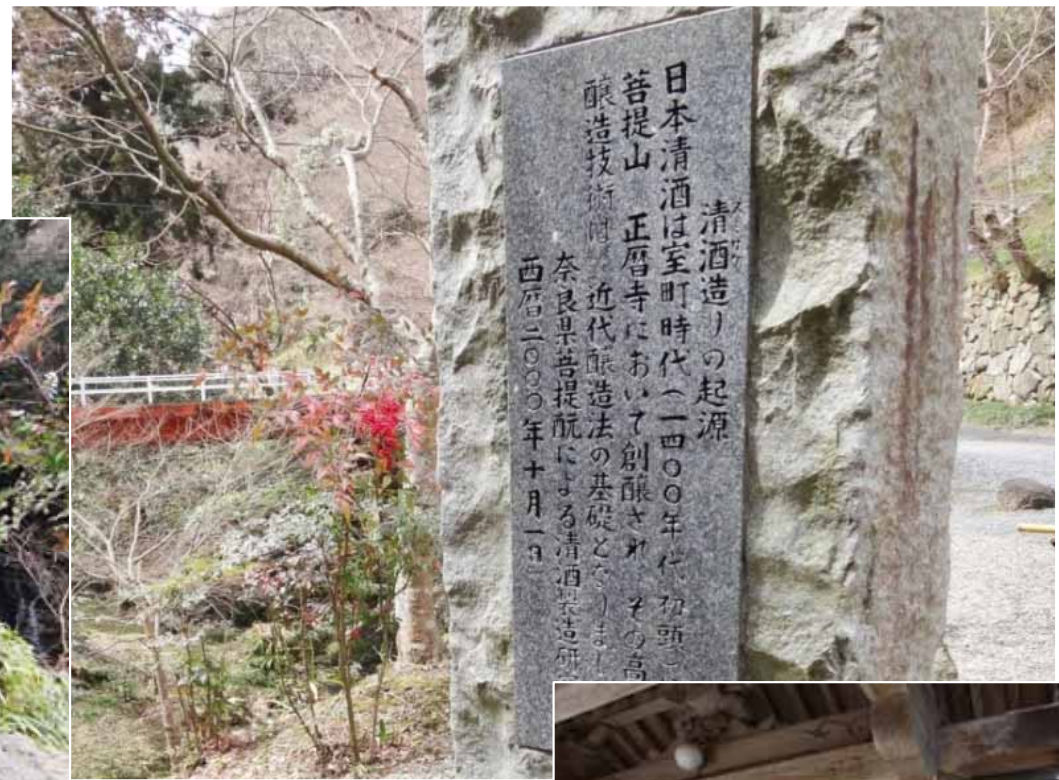


- 奈良の三輪大社(大神神社-「おおかみ」と書いて「おおみわ」神社と読む)もお酒の神様。本殿を持たず、三輪山をご神体として祀る。ご神体の三輪山に登ることは出来るが入山後の撮影は禁止なので、山の写真は無い。古くは「三諸山(みむろやま)」と呼ばれたが、「みむろ・実醪」は「酒のもと」の意であると言われる。
- 「酒栄講(さかえこう)」は大正時代に始まった三輪大社を崇敬する酒造家の講。清酒の菰樽のお供えのほか、「サントリーウイスキー」「アサヒビール」「ヒガシマル醤油」のお供えもあった。(左)
- 本殿の鳥居は水平部分がしめ縄となっている独特の形状(下左)。
- 境内には「活日(いくひ)神社」という小さな祠があるが、これは杜氏の神様。金沢の福光屋さんの献灯があった。(下右)
- なお、三輪神社近くにある清酒の蔵元、今西酒造さんは万治3年(1660年)の創業。古くから酒造に関連した土地であることをうかがわせる。



神社仏閣とお酒 in Japan

正暦寺・菩提酛(1/2) @奈良



- これまでは神社だったが、今度はお寺。奈良県の正暦(しょうりゃく)寺には、「日本清酒発祥之地」の石碑がある。「菩提酛(ぼだいもと)」が始まったお寺。因みに、このお寺は当社「きた産業・奈良工場」から至近、車で5分ほど山手に走った山間にある。
- 「菩提酛」は工業技術センターなどの協力を得て近年復活を果たしている。毎年1月に寺の門前で菩提酛の仕込みがおこなわれ、その後奈良県下の蔵元数社でお酒になる。なお、お寺由来のお酒、僧坊酒は「菩提酒」のほか「天野酒」(大阪、金剛寺)が有名。



- 寺だから「不許葷酒入門」と思いきや、この正暦寺ではこれら蔵元でつくられた菩提酛のお酒が販売されている。ベルギーやオランダのトラピスト(男性)修道会やトラピスティヌ(女性)修道会で市販目的のビールが造られるが、洋の東西の比較発生論も面白そうだ。
- 「清酒発祥の地」の碑は、兵庫県伊丹市鴻池にもある(左下写真)。両方の石碑とも、2000年に建立されたもの。

兵庫の伊丹
➢ 伊丹市にある
「清酒発祥の地」(石碑)

奈良の正暦時

- 「日本清酒発祥之地」(石碑)
- 菩提酛の登場(御酒之日記)→「1355年と1489年の二説」
- お祭り→「1月10日」(ただし、新しいお祭り)

神社仏閣とお酒 in Japan

正暦寺・菩提酛(2/2) @奈良



菩提酛仕込の基本は「御酒之日記」に記されています

1. 『御酒之日記』に記された菩提酛の造り方
時期は夏（立秋の頃から作る）

< 最初の2日間 >	< 8日目から7日間 >
水	2種を混ぜて表面にばらまく ごはん5合 麴5合
生米9升	水（そやし水）1斗 麴 4升 蒸米9升 乳酸酸性水
ごはん1升	ごはん5合 麴5合 2種を混ぜて下に敷きつめる

菩提酛の仕込み配合

ごはん	1斗（40%）
麴	5升（20%）
水	1斗（40%）

- 2015年1月10日、「菩提酛清酒祭り」を見学。寺には専用の蒸気発生用ボイラーがあって、大きな釜で米を蒸す。蒸米中は独特の臭い（乳酸の臭い）が漂う。4日間もの浸漬で、お米が乳酸醗酵しているから。また、仕込みに使うため半切り桶にためてある、お米をといだ乳酸酸性の水からもおいがする。
- 泡盛の昔の製法で「シー汁浸漬」というのがあるのを思い出した。これも乳酸利用。米を洗わずに水に数日間浸漬して、糠の乳酸菌を繁殖させて乳酸を作る。琉球で泡盛造りが始まったのは15世紀、シャムから伝わったと言われるが、シー汁浸漬の起源は知らない。
- 1時間ほど蒸した後、蒸米は露天のよしずの上に拡げて放冷。雲行きがやや怪しくて雨を危ぶんだが、「菩提酛清酒祭り」を初めて以来一度も雨が降ったことがない」そう。
- 右上は、当日配られた菩提酛の解説資料。なお、お祭りではありますが酒造行為なので、税務署の方も立ち会いに来られています。



- 造られた菩提酛（酒母）は奈良県下数社の蔵元に配られ、清酒になる。昔はもう少し多かったそうだが、菰樽（参加蔵元として）が飾ってあったのは9社、テントで実際に菩提酛清酒を販売していたのは7社。
- スナッフ写真。私の右は、油長酒造（「鷹長」「風の森」）の山本社長さん、その隣はシンガポールから見に来られたご夫婦で、サケに大変興味を持っておられるそう。サケの国際化を感じます。

神社仏閣とお酒 in Japan

金剛寺・天野酒@大阪



- 僧坊酒は「正暦寺」の「菩提酒」のほか、大阪・河内長野市の「金剛寺」の「天野酒(あまのざけ)」が有名。金剛寺は正式には「天野山金剛寺」なので「天野酒」。
- 金剛寺は「女人高野」と言われ、金堂や多宝塔などの立派な建物群、すばらしい庭園、有名な「日月山水図屏風」はじめ、国宝や重文多数。参詣者も多い。ただ、天野酒に関する解説や表示がない。唯一、写真の「天野酒醸造用大甕」(備前焼)が、ぼつねんと飾られるのみ。
- Wikipediaで僧坊酒を引くと、他に河内の「観心寺酒」、近江の「百済寺酒」なども名高かった、とある。観心寺も百済寺も訪問したことがあるが、~~僧坊酒の案内はまったくない。残念な事である。~~ →次ページ
- 金剛寺の境内横には写真のような小川が流れる。奈良県の正暦寺にも川が流れるが、酒づくりに重要な役割を果たしたのだろう。
- なお、「天野酒」は現在、市販酒銘柄として西條合資会社で生産・販売されている。



神社仏閣とお酒 in Japan



ed.4.0 (2020.03.04)

ひゃくさいじ 百済寺@滋賀

- 滋賀県東近江市にある百済寺。「くだらでら」ではなく、「ひゃくさいじ」と読む。
- 1573年に織田信長に焼き討ちされるまで、「百済寺樽(ひゃくさいじたる)」という清酒を造っていた。前出の「正暦寺・菩提泉」、「金剛寺・天野酒」に並ぶ僧坊酒。前ページでは「百済寺には僧坊酒の案内がない」と記載したが、その後、再訪した時に、左写真の小さな看板を発見したので収載。ただ、僧坊酒に関してはこの看板だけで、他の紹介はない。「直径1m余りの酒甕が十数個出土」とあるが、現物の展示もない。
- Wikipediaによれば、「寺伝では606年聖徳太子建立だが、百済寺という寺号から見て、渡来系氏族の氏寺として開創された可能性が高い。朝鮮・百済の龍雲寺にならって寺を建てたので百済寺と号したという。戦国時代に来日した宣教師のルイス・フロイスが、(その僧坊群を見て)「地上の楽園」と書簡に書いている。」下の写真は、かつての僧坊群の模型。
- 渡来人由来というのは、松尾大社と同じ(本資料1ページ)。5世紀に朝鮮半島から渡来した秦(はた)一族が松尾山を奉り、701年に社殿を建立したのが起源。秦一族が、酒造りがうまかったことがお酒の神様としての信仰につながったそう。伏見稲荷(本資料、後掲)も、秦一族に関係する。
- 2019年、「百済寺樽」復活プロジェクトによって、444年ぶりにお酒を復活させたそう。滋賀県の喜多酒造が醸造。

- <坊さんの発明> というのは、坂口謹一郎の名著「世界の酒」(1950年から1951年にかけて、ヨーロッパの酒造業や研究所を見て回った紀行文)の、シャンパーニュの章の見出しタイトルの一つ。壇内二次醗酵を見出したドンペリニオン修道士を指して、坊さんの発明としたもの。僧坊酒は、日本版の坊さんの発明だろう。ただし、ドンペリより数百年は早い。

- <僧坊酒vs神社の酒> 室町時代(14~16世紀)、いくつかの寺で「僧坊酒」が造られた。その品質は高く、大量に流通販売された。元来、仏教は飲酒を禁じているにもかかわらず僧坊酒が存在するのは、10~11世紀の神仏混淆時代に寺の境内に鎮守社ができ、それに奉獻する神酒づくりに由来すると言われる。



picture source : Wikipedia

ed.4.0 で追加のページ

百済寺の菩提樹→菩提樹の話

- 余談ですが、、、百済寺には「千年菩提樹」がある。1573年の織田信長の焼き討ちで燃えたが、根が残って蘇った、と看板にある。確かに、主幹がない独特の枝ぶり。
- 菩提樹は釈迦の悟りの木。本当の釈迦の菩提樹は「インドボダイジュ」(クワ科)だが、この百済寺のものは「中国ボダイジュ」(シナノキ科)。菩提樹(中国ボダイジュ)は日本では珍しく、知る限り近畿圏と西日本の古い由緒の寺で稀に見かけるのみ。
- 菩提樹がある寺でも必ず1本しかない。高貴だから1寺1本に制限したのか。古木の周りに子孫の木が全くないのを見ると、増やすのが容易でないのだろう。臨済宗の開祖、栄西禪師が1191年に中国から持ち帰ったのが始まりで、近畿圏の寺にあるのはすべてその子孫らしい。
- 実は、西宮の私の自宅にも中国菩提樹が1本ある。父方の家系は(逼塞して久しいが)、3代くらい前まで近江八幡の豪商(近江商人)で、豪壮な邸宅だった。成功の証で、江戸期か明治期に入手したのではないかと思うが、個人宅としては珍しく庭に中国菩提樹を植えていた。それを西宮に移植したもの。6月ころ黄色い花をつける。とてもいい香りを漂わせるので、必ずミツバチが来る。幅広と細長の2種類の葉形があり、幅広の方の葉がインドボダイジュの葉に似ているのが、中国で菩提樹と言われるようになった理由。一方、細長い方の葉は、その中央部から茎が出て小さな実がなる、という変わった樹木である。
- その実のついた細長い葉を長年、各地で集めている。



滋賀・湖東
「百済寺・千年菩提樹」



京都・宇治
「黄檗山万福寺」



奈良・明日香
「飛鳥寺」



奈良
「西大寺」



京都・吉田山
「真如堂」



兵庫・夙川
「石廬庵」



神社仏閣とお酒 in Japan

奈良・「東大寺」大仏殿、西の回廊

日本に初めて中国菩提樹を持ち返ったのは、鎌倉時代の禅宗の僧で、中国(宋)に留学した明菴栄西(みょうあん えいさい)禅師。最初、1189年に報恩寺(福岡)に植え、その後1195年に東大寺に植えた。東大寺に現在ある菩提樹はその時植えられた木そのもので、800年以上の樹齢。大木になっている。

この木は西の回廊沿いにある。一般参拝者は境内中央を通ることになっていて、西の回廊には立ち入りできない。菩提樹を遠目に見ることはできるが、落ち葉の採取はむづかしい。



東大寺 大仏殿 西の回廊
2023.11.19 (1195年に植えられた)

奈良・天川村 「弘法大師の菩提樹」



奈良 天川村 「弘法大師の菩提樹」
23.11.20



群馬・高崎 少林山達磨寺
印度のシロバナの菩提樹の、その孫の木
23.02.11

群馬・高崎「少林山達磨寺」

これは「中国菩提樹」でなく「インド菩提樹」。釈迦が悟りを開いた菩提樹の、そのものの木の孫にあたる木。インド人僧侶が、高崎の達磨寺に持参。それを2株、達磨寺の住職が境内で育てている。すでに書いたように、中国菩提樹には幅広と細長の2種類の葉形があり、幅広の方の葉がこのインド菩提樹の葉に似ているのが、中国で菩提樹と言われるようになった理由。

余談ですが...

菩提樹の話

奈良・「薬師寺」 玄奘三蔵伽藍



奈良 薬師寺 玄奘三蔵伽藍
RAIKER NEW 24.01.03

兵庫・姫路 「書写山圓教寺」



姫路 書写山圓教寺
O-Take-san Enkyo-ji
RAIKER NEW 23.04.08

兵庫・夙川 「石廬庵」2024年



2024.07.13 石廬庵

東京・銀座
「並木通り」



- 東京・銀座の「並木通り」の菩提樹は、近畿圏の寺にある中国ボダイジュとは違う、ヨーロッパ由来の「セイヨウシナノキ」。歌になっているのでドイツ語の「リンデンバウム」という名前を知っている人も多だろう。中国産に近縁で、幅広と細長の2種の葉があり、細い方の葉から茎が出て実がなるのは同じ。ただ並木通りの菩提樹は、樹木によって、また枝によって、幅広の葉のみで、細長の葉がない(すなわち、実がない)場合も多い。また、年によって、細長の葉が出ない樹もあるようだ。「セイヨウシナノキ」は他地域でも見かけることがあるが、細長の葉が少ないことが多いようだ。
- ボダイジュはヨーロッパでも高貴な木とみなされるようで、由緒正しい宮殿、城、寺院に植えられている。ただし、ベルギー、チェコ、ノルウェーなど冬が寒い地方に行くにつけ街路樹に使われるなど、希少性は低くなるようだ。日本でも北海道ではゴルフ場などに植えられている。

スペイン・グラナダ
「アルハンブラ宮殿」



イタリア・パドバ
「スクロヴェーニ礼拝堂」



アメリカ・サクラメント
「州議会議事堂の前」



スコットランド・エジンバラ
「エジンバラ城」



イタリア・ミラノ
「スフォルツェスコ城」



フランス・パリ
「サンジェルマンデブレ教会」



ベルギー
「デュヴェル」
(ビール醸造所)



オーストリア・パツハウ
「ニコライホフ」
(ワイン醸造所)



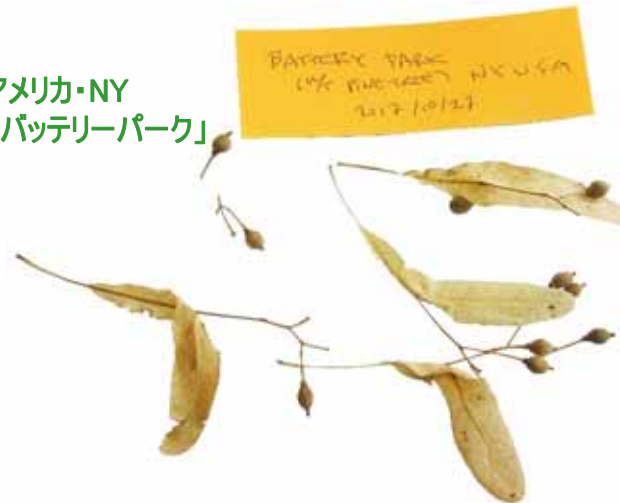
フランス・ボルドー
「シャトー・オーブリエン」
(5大シャトーの一つ)



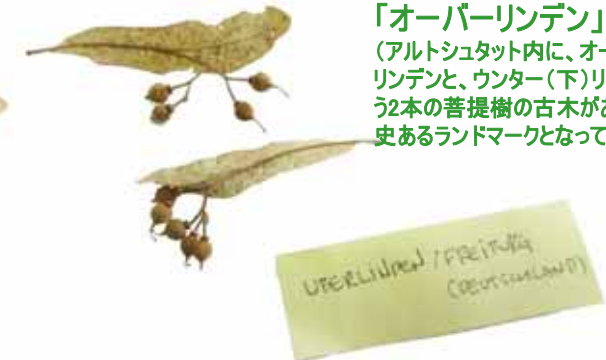
フランス・ストラスブール
「ノートルダム大聖堂」



アメリカ・NY
「バッテリーパーク」



ドイツ・フライブルグ
「オーバーリンデン」
(アルトシュタット内に、オーバー(上)リンデンと、ウンター(下)リンデンという2本の菩提樹の古木があって、歴史あるランドマークとなっている)



イギリス・ロンドン
「ハイドパーク内、ケンジントンガーデンの前」



アイルランド・ウィックロウ
「パワーズコート」
(アイルランドで最も有名な、かつての貴族の邸宅・庭園)



ノルウェー・オスロ
「ヴィーゲラン公園」



神社仏閣とお酒 in Japan

余談ですが、...

世界の菩提樹の話

スイス・インターラーケン
「菩提樹のある公園」



INTERLAKEN / SWISS

チェコ・プラハ
「旧市街の街路樹」



プラハ 旧市街の街路樹

イギリス・ロンドン
「KEWガーデン」



KEW GARDEN (U.K.)



SWEDEN STOCKHOLM 2019/6
NORDISKA MUSEET
(北方民族博物館 江戸館)

スウェーデン・ストックホルム
「北方民族博物館」



REIMS
FRANCE
2014

フランス・ランス
「駅前公園」

アメリカ・シアトル・ウーデンヴィル
「Ch.サンミッシェル」



2018/5/20
SEATTLE USA
WOODINVILLE CH. St. MICHAEL

神社仏閣とお酒 in Japan

白川八幡神社(1/2)@飛騨白川郷・岐阜



- ユネスコ世界遺産の白川郷合掌集落にある八幡神社には、「どぶろく」祭りがある。祭りは毎年10月14・15日に行われ、「御神幸」と呼ばれる行列が集落を巡って神社に帰ってきた後、参拝者にどぶろくが振る舞われるそう。
- 「どぶろく祭りの館」という常設展示館があって、詳しい資料が展示されている。左下は展示されていた名古屋税務管理局の古い酒造免許台帳。明治29年10月7日に濁酒の免許を、八幡宮（鳩谷と荻町の2箇所の八幡宮）に出した記録。白川八幡神社は荻町のほうだが、1Kmほど離れた高速道路出口近くの鳩谷にも八幡神社があり、現在でも2箇所の八幡神社でどぶろく祭りが行われる。（2020.04追記：ほかに平瀬八幡神社と木谷白山神社でも。計4つの神社でどぶろくが造られる）



- 醸造がいつ始まったかについての解説がなかったが、白川村役場のウェブサイトには「どぶろくは和銅年間（708年～714年）頃から祭礼用として用いられたと伝えられる」とある。
- 木造の建物は境内にある「御神酒殿」。毎年1月に杜氏と当番の人が、ここでどぶろくの醸造をおこなう。内部の写真では、思いのほか仕込みタンクの数が多いのがわかる。

濁酒												濁酒												濁酒											
明治十九年十月七日												明治十九年十月七日												明治十九年十月七日											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄												大野郡白川村大庄											
大野郡白																																			

神社仏閣とお酒 in Japan

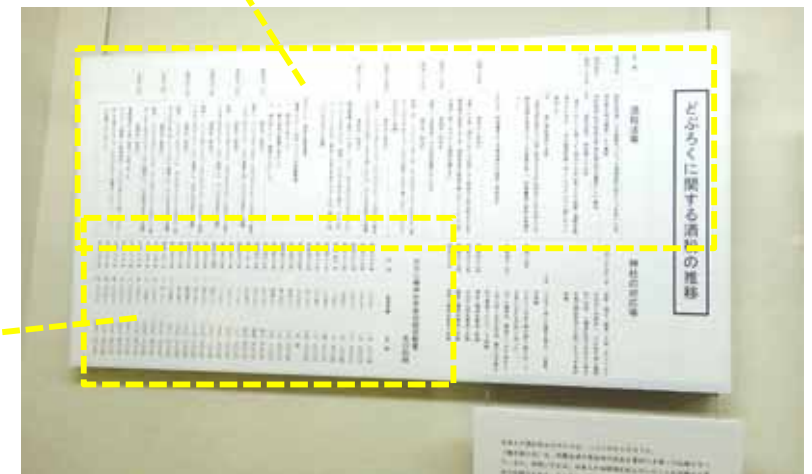
白川八幡神社(2/2)@飛騨白川郷・岐阜

- 「どぶろく祭りの館」にある展示パネル。「神社の造酒」に関する酒税法の変遷をまとめた資料は珍しいと思うので拡大して掲載しておきます。
- 「明治29年、神社において明治13年以前から引き続き酒類を製造するときは1年につき1石以下は無税、10月7日付で担当税務署から各神社に免許を交付」「昭和23年、神社への免税措置がなくなる」「昭和37年、祭礼用、最小限であること、境内から持ち出し禁止」などが記載されている。

年度	酒税法等
明治元年	合計布達による特例により酒税免除(酒石につき金二十圓) 神社祭礼用は特例により無税
明治四年	免許制度(許可料金五圓)神社祭礼用は特例により無税
明治二十九年	三月 酒税法施行 則第三十六條 「神社において古例により明治十三年以前より引き続き酒類を製造するときは、一年の製造石数一石(一八〇リットル)以下に限りすべて無税とす」 八月 施行規則第四十五條 「酒税法第三十六條に該当するものは明治十三年以前より引き続き酒類を製造することの事実を以て、税務署長に免許を申請し得べし」 十月七日 税務署長より申請各神社代表者へ免許交付
昭和十五年	酒税法一部改正 法第八十五條「神社において古例により明治十三年以前より引き続き酒類を製造するときは、酒税年度の製造石数一石(一八〇リットル)以下の場合に限り酒税を免除す」 酒税法一部改正 法第八十五條附則により免税措置がなくなる。
昭和二十九年	酒税法一部改正 税率一石(一八〇リットル)につき一五、〇〇〇円(アルコール分が十二度をこえるときはアルコール分十度をこえる一五、〇〇〇円を加えた金額)
昭和三十三年	酒税法一部改正 税率一石(一八〇リットル)につき一五、〇〇〇円(アルコール分が十二度をこえるときはアルコール分十度をこえる一五、〇〇〇円を加えた金額)
昭和三十四年	酒税法一部改正 税率一石(一八〇リットル)につき一五、〇〇〇円(アルコール分が十二度をこえるときはアルコール分十度をこえる一五、〇〇〇円を加えた金額)
昭和三十七年	酒税法一部改正 税率一石(一八〇リットル)につき一五、〇〇〇円(アルコール分が十二度をこえるときはアルコール分十度をこえる一五、〇〇〇円を加えた金額)
昭和五十一年	五月十二日 国税庁長官通達 酒税(どぶろく)許可についての制事項 一、 最小限の数量であること。 二、 境内持ち出し、販売しないこと。 三、 酒税法一部改正 税率一石(一八〇リットル)につき一五、〇〇〇円(アルコール分が十二度をこえるときはアルコール分十度をこえる一五、〇〇〇円を加えた金額)
昭和五十二年	酒税法一部改正 税率一石(一八〇リットル)につき一五、〇〇〇円(アルコール分が十二度をこえるときはアルコール分十度をこえる一五、〇〇〇円を加えた金額)
昭和五十六年	酒税法一部改正 税率一石(一八〇リットル)につき一五、〇〇〇円(アルコール分が十二度をこえるときはアルコール分十度をこえる一五、〇〇〇円を加えた金額)
昭和五十九年	酒税法一部改正 税率一石(一八〇リットル)につき一五、〇〇〇円(アルコール分が十二度をこえるときはアルコール分十度をこえる一五、〇〇〇円を加えた金額)
平成十七年	酒税法一部改正 税率一石(一八〇リットル)につき一五、〇〇〇円(アルコール分が十二度をこえるときはアルコール分十度をこえる一五、〇〇〇円を加えた金額)
平成十八年	酒税法一部改正 税率一石(一八〇リットル)につき一五、〇〇〇円(アルコール分が十二度をこえるときはアルコール分十度をこえる一五、〇〇〇円を加えた金額)

- 八幡神社の酒造量の変遷。昭和30年代までは、「年1石(約180リットル)以下」の範疇だったが、その後増え続け、近年は5~6,000リットル(30石前後)もの量を造っている。
- 壺詰め行為や、祭りの場所以外での提供は禁止なので、全て2日間の祭りで消化される。30石という量から考えると、祭りには1~2万人は参加する勘定。

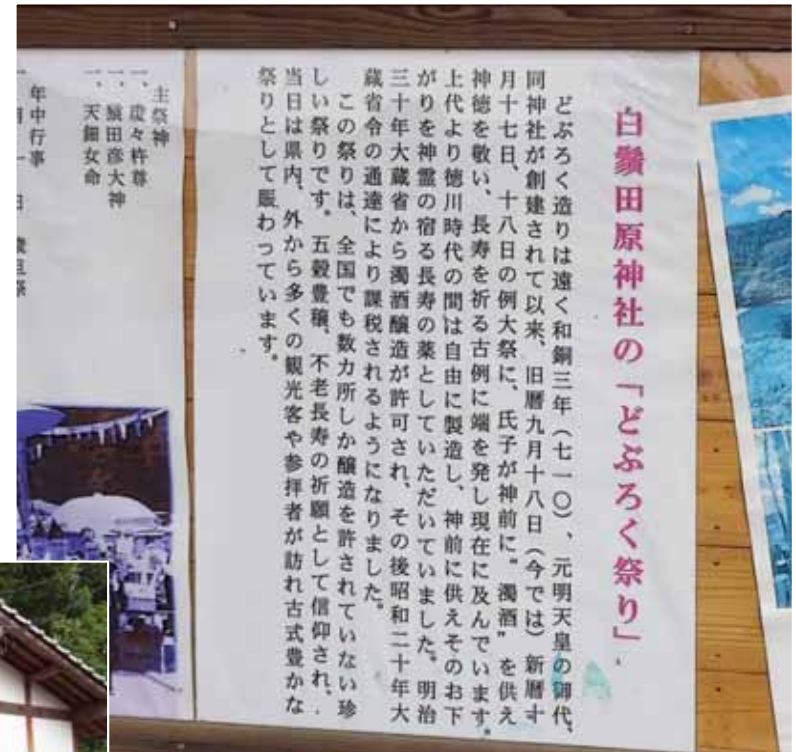
年度	製造数量	税額
昭和三十六年	一三三石	一九、〇〇〇円
昭和三十七年	一五三石	九、七〇〇円
昭和三十八年	一五八石	一〇、七〇〇円
昭和三十九年	一四四石	九、二〇〇円
昭和四十年	一六九石	八、七〇〇円
昭和四十一年	一九五石	一四、〇〇〇円
昭和四十二年	三二四石	一八、八〇〇円
昭和四十三年	四二八石	二四、八〇〇円
昭和四十四年	三八六石	二四、三〇〇円
昭和四十五年	四四三石	二八、三〇〇円
昭和四十六年	四二六石	二八、九〇〇円
昭和四十七年	四四三石	三〇、一〇〇円
昭和四十八年	六八八石	四八、六〇〇円
昭和四十九年	六二二石	四四、六〇〇円
昭和五十年	六七五石	四九、五〇〇円
昭和五十一年	八一八石	六一、六〇〇円
昭和五十二年	八六二石	七六、八〇〇円
昭和五十三年	一一七石	一四、九〇〇円
昭和五十四年	四六一石	一七、〇〇〇円
昭和五十五年	四三三石	一七、八〇〇円
昭和五十六年	一、三三六石	二一、〇〇〇円
昭和五十七年	一、四五四石	一九、〇〇〇円
昭和五十八年	一、五二五石	二〇、九〇〇円
昭和五十九年	二、〇九四石	二七、六〇〇円
昭和六十年	二、四一〇石	三三、三〇〇円
平成元年	六、八二五石	一〇、六七五〇円
平成二年	六、一六四石	九、〇三三〇円
平成三年	六、六七三石	八、六八四〇円
平成四年	六、〇八三石	七、五三三〇円
平成五年	六、〇六六石	八、四八四〇円
平成六年	五、七八七石	八、〇七五〇円
平成七年	五、九〇七石	八、二六六〇円
平成八年	五、三八三石	七、五三三〇円



神社仏閣とお酒 in Japan

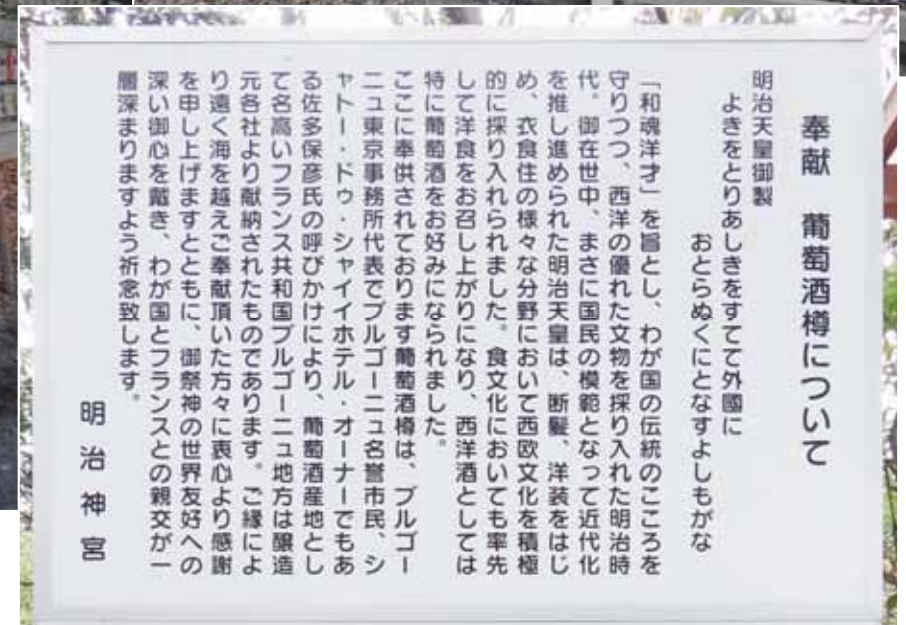
白髭田原神社@大分の国東半島

- 国東(くにさき)半島の白髭田原(しらひげたわら)神社は「どぶろく祭り」で有名。国東半島は数多くの磨崖仏やお寺があることで有名だが、神社は少数派である。
- 白川郷の八幡神社と同じく、境内には独立した醸造所建物がある。古い石碑には「全国で唯2カ所のどぶろく祭り」とあったが、たぶん白髭田原神社と白川郷八幡神社のこと。「濁酒記念碑」という石碑がある。以前は、九州で唯一国税庁より許可されて濁酒を作っていたそう。
- 案内書き(右写真)に「どぶろく造りは、神社創立の和銅3年(710年)とともに始まる」、とある。既述の通り、白川郷・八幡神社も和銅年間(708~714年)。これだけ離れた土地でほぼ同時期に神社のどぶろく醸造が始まるのは、このころに醸造技術が確立したからではないだろうか。
- 醸造所の外には検定記録を記した桶があって、濁酒がつくられているようすがうかがえた。毎年10月17・18日がどぶろく祭りで、参拝者に振る舞われる。



大分の白髭田原神社
➤ 和銅3年→「710年」
➤ お祭り→「10月17・18日」

神社仏閣とお酒 in Japan



明治神宮@東京

- 明治神宮の参道の菰樽の数は日本一ではないかと思う。清酒だけでなく、焼酎や泡盛もある(矢印)。
- 菰樽以外に、新酒の時期には日本酒造組合中央会を通じて、全国の清酒・焼酎の壺が本殿横の特設棚にズラリとお供えされるそう。
- 右上は同じく明治神宮参道にあるワイン樽。日本ならぬ、フランスのブルゴーニュからの献納。ロマネコンティの奉献樽もある！ 明治天皇が葡萄酒を好まれたことに由来する、と案内板(右)に書かれている。ただし、始まったのは2006年と、比較的新しい。(そもそも、明治神宮ができたのが1920年と、新しいのだが。)

- 2020.04追記: 明治天皇は酒がお好きで日本酒、保命酒、シャンパン、ベルモット、ワインなどを好まれたそうだが、崩御の前の最後の食事で飲まれたのはワイン2杯だそう。それがブルゴーニュだったかどうかは不明。
- ただ、殉死した乃木希典が、死の直前に飲んだ明治天皇から賜ったワインは、乃木神社の宝物殿の壺を見るとボルドーであるらしい。

神社仏閣とお酒 in Japan

「出雲大社@島根」と「伊勢神宮@三重」には、神前の御神酒や、境内の菰樽が(見える範囲に)ない.....

- 日本を代表する二つの神社、出雲大社と伊勢神宮。遷宮で話題になった2014年に両方の神社にお参りした。一般の神社では神前に一升壇のお酒を奉獻してあるのをよく見かけるが、格式高いこの二つの神社はラベル(銘柄)の付いたお供えのお酒は受けないようだ。また、私が見た限り、境内にお供えの菰樽もなかった。「御神酒上がらぬ神はなし」と言われるとおり、当然、御神酒が供えてあると思うが、一般参拝者が見える範囲にはなかった。
- 伊勢神宮は、灘の「白鷹」が御料酒。境内の売店でも、白磁のびんなどに入った白鷹が販売されている。
- 出雲大社にお供えするお酒(民間の銘柄か、神事用の酒造免許かなど)は不明→次ページ。境内での御神酒の販売はない。(「八千矛」という銘柄が大社の外で御神酒として販売されていたが。) なお、出雲大社近くに前掲の佐香神社があって、歴史的には出雲大社と関係があるだろう。
- 通常の神社では「二礼二拍手一礼」だが、出雲大社(と後掲の宇佐神宮、弥彦神社)は2倍の「二礼四拍手一礼」、伊勢神宮は4倍の「四礼八拍手一礼」。



神社仏閣とお酒 in Japan

「出雲大社@島根」と「伊勢神宮@三重」の追加情報

- この2つの神社は共に、境内でお神酒を醸している。それもおそらく千数百年にわたって続けている。
- 神社といえども、明治以降の酒税制度の下では、酒造に免許が必要である。「その他の雑酒」免許で濁り酒などのお神酒をつくる神社は、全国に40社ほどある。(このレポートに登場する、佐香神社、春日大社、白川八幡神社、白髭田原神社は「その他の雑酒」免許。記事では触れなかったが三輪神社＝大神神社もこの酒造免許を持つ)
- 一方、「清酒製造免許」を持つ神社は稀で、たぶん現在4社のみ。伊勢神宮と出雲大社はその清酒製造免許を持つ。(他の2社は、千葉の「莫越山(なこしやま)神社」と、山口の「岡崎八幡宮」。)
- 余談ながら、岐阜県の多治見修道院はミサのためのワイン醸造免許を持つ。宗教に関するワイン免許は日本唯一だと思う。
- **伊勢神宮**では、白酒(しろき)、黒酒(くろき)、醴酒(れいしゅ)、清酒(せいしゅ)の4種がお神酒として使われる。醴酒と清酒は365日朝夕2回お供えし、白酒と黒酒は重要な行事で使うそう。白酒、黒酒、醴酒の3つは境内で醸造される。白酒、黒酒は濾過行為を伴うので、酒造免許上は清酒扱いとなるそう。実際の清酒は、実は外部調達で、1924年から灘の「白鷹」である。前ページのように売店で参拝者に販売されるお神酒も「白鷹」である。
- 伊勢神宮は、内宮と外宮の2か所に分かれているがそれぞれに、すなわち2か所の「忌火屋殿(いみびやでん)」という建物があって、そこで神官が白酒、黒酒、醴酒を醸す。伊勢神宮は御料田を持っていて、田植えから神事として行い、その米で醸す。完全な古式を守っていて、精米は機械でなく手搗(てづ)き、火を起こすのさえマッチを使わず木と木を擦り合わせるというストイックさ。内宮には、忌火屋殿とは別に「御酒殿(みさかどの)」があるが、これは外部から調達する麴や清酒をいったんお供えするところである。白酒、黒酒は年3度の醸造だが、醴酒は毎日醸造する。「醴酒」は「一夜酒」(一晩で出来るから)ともいわれ、醸造法は非公開だが、アルコール度数1%未満で税法上は酒でなく、お粥のように米粒も残る甘酒のようなものらしい。



伊勢神宮・内宮の忌火屋殿



伊勢神宮・外宮の忌火屋殿

- **出雲大社**では、醴酒(一夜酒)と清酒の2種がお神酒として使われる。やや古い資料だが、「境内にある「御供所(ごくうしょ)」で、清酒は300リットル以上を醸造し、毎日五合を神前に供える。醴酒は2日ほどかけて醸造し11月の古伝新嘗祭にのみ供える」、という記述(加藤百一「酒造り神事」酒史研究、1985年4月)がある。現在も状況は同じだと思われる。
- 出雲大社のお神酒の清酒はいわゆる清酒である。清酒免許は清酒のためのもので、伊勢神宮(白酒・黒酒を濾すので清酒免許が必要)と事情が異なる。一方、醴酒がアルコール度数1%未満で酒税対象外であるのは、伊勢神宮と同じだと思う。(非公開なので推定。詳細不明。)
- 伊勢神宮の境内地図には忌火屋殿がでていますが、出雲大社の境内地図には御供所が見当たらない。神饌所内にあるのか？ このあたりも不明。火を起こすのは木と木を擦り合わせるそうで、これは伊勢神宮と同じである。
- 御供所で造られる清酒は祭神である大國主大神のみに供え、摂社の神々には前ページにもある、「八千矛(やちほこ＝大國主の別名)」という出雲大社近くの古川酒造の銘柄をお供えするそう。古川酒造の先祖は出雲大社で造酒司(さけのつかさ)という神職を務めていた。天保年間(1831年～1845年)に酒造業に転じたが、従前通りお神酒を造り続けたそう。2013年から、同じく出雲の旭日酒造が、「八千矛」の銘柄を引き継いでいる。八千矛は一般参拝者に販売されるのは、伊勢神宮の白鷹と同じ。

神社仏閣とお酒 in Japan

「出雲大社@島根」

- 2024年に放送された、NHKの昔の番組の再放送、1985年の出雲大社の番組の一コマ。電柱に「酒はヤチホコ」の看板を見つけたので記録した。出雲大社のお神酒奉納だけでは商売が成り立たないので、市販酒として販売していたのだと思います。
- 「出雲大社」と「春日大社」の共通性: ①両大社とも、「一夜酒、または一宿酒」(ひとよざけ)と「清酒」(「濾す」という免許要件上の清酒でなく、いわゆる清酒)の両方が御神酒の儀式に必要であること。②両大社とも、代々続く「酒造り専門の神職」がいたこと。(ヤチホコの「古川」酒造の先祖は出雲大社で造酒司(さけのつかさ)という神職を務めていた→下記。春日大社の酒殿では、江戸時代まで「酒殿」姓を名乗る神職が酒造りをしていた→春日大社の部分に記載。)
- 江戸時代まで、酒を自醸する神社は全国に多数あった(<https://www.kitasangyo.com/pdf/archive/sake-info/omiki.pdf> の追加資料部分参照)が、代々の酒造り専門の神職がいた神社は多くなかったと思う。「ひとよざけ」だけでなく、手間のかかる「清酒」も造っていたことが関係すると思う。



- 御供所で造られる清酒は祭神である大國主大神のみに供え、摂社の神々には前ページにもある、「八千矛(やちほこ＝大國主の別名)」という出雲大社近くの古川酒造の銘柄をお供えするそうだ。古川酒造の先祖は出雲大社で造酒司(さけのつかさ)という神職を務めていた。天保年間(1831年～1845年)に酒造業に転じたが、従前通りお神酒を造り続けたそうだ。2013年から、同じく出雲の旭日酒造が、「八千矛」の銘柄を引き継いでいる。八千矛は一般参拝者に販売されるのは、伊勢神宮の白鷹と同じ。

神社仏閣とお酒 in Japan

南と北でみる献酒－清酒と焼酎

宇佐神宮@大分

- 九州・大分県の宇佐市にある宇佐神宮は全国の八幡神宮の総本山。
- 上段は清酒の菰樽。下段は焼酎の巨大な壺(18リットル壺)。焼酎は、菰樽よりやはり壺のほうが似合うように思う。
- 奉献のお酒の銘柄は、清酒と焼酎がほぼ半々。かつて大分は清酒県だったが、いまや生産も消費も焼酎の比率が高いのだろう。



青島神社@宮崎

- 九州は南に行くに従って焼酎消費圏となる。大分より南の宮崎では、お供えのお酒も焼酎比率が上がる。
- が、清酒(雲海酒造さんの「綾錦」)もお供えされている。(こちらは焼酎も清酒も菰樽入り。)



彌彦神社@新潟

- 一方、日本を北に行くと、、、
- 雪深い時期に訪れた彌彦神社。酒どころ新潟は当然ながら清酒ばかりである。
- 神社の売店では小さな白磁ガラスに入った御神酒も売られている。



神社仏閣とお酒 in Japan

酒どころ灘・伏見＋大阪でみる献酒

西宮戎@兵庫

- 「灘・伏見の神社」→<灘> 灘五郷の一角にある「西宮戎(えびす)」。写真は「十日戎」(最も有名な1月10日のお祭り)で撮影。当然ながら有名な灘酒の菰樽が並ぶのだけれど、ここではビールを紹介。キリン、アサヒ、サッポロ、サントリーの4社がそろい踏み。ビール企業も信心深い。戎神社だけに「エビスビール」は巨大ラベルも奉納。なお、清酒は一升壇のお供えが神殿内にびっしり並ぶ。
- 西宮戎は商売繁盛の神様なので、十日戎は私もこの30年ほど欠かさずお参りして、毎年、「福笹」(商売繁盛の笹)を買い求めます。



住吉大社@大阪

- 兵庫、京都を紹介したので、大阪の代表的神社もご紹介します。太鼓橋で有名な住吉大社。ご覧の通り、「住吉」という銘柄もある。その菰には「井上謹醸」とあるが、山形の樽平酒造のもの(昭和40年に井上酒造から樽平酒造に改名)
- 余談ながら、かつて、この住吉大社の目と鼻の先に「摂津酒造」という会社があった。この会社がニッカウヰスキー創業者の竹鶴をスコットランドに留学させた。
- 摂津酒造は1964年に宝酒造が吸収合併。住吉には何も残っていないが、摂津酒造の灘工場は現在の宝酒造の白壁蔵となっている。



伏見稲荷@京都

- 「灘・伏見の神社」→<伏見> 山に向かう参道に鳥居が数千本並ぶ風景で観光地としてもすっかり有名。全国の稲荷神社の総本山。
- こちらも商売人の信仰を集める。西宮戎と同じく、昔からよくお参りするし、会社(きた産業)として毎年お札をもらっています(たぶん戦前から)。
- 蔵元のお供えの酒も勿論あるが、ここに見える菰樽や一升びんは、伏見稲荷を信奉する個人や企業がお供えしたもの。
- 前掲の松尾大社は、5世紀に朝鮮半島から渡来してきた秦(はた)一族が建立したのが始まり。この伏見稲荷も、同じく秦氏が創建。松尾大社は太秦(うずまさ)の秦氏、伏見稲荷は深草の秦氏による。



神社仏閣とお酒 in Japan

伏見稲荷@京都

- 伏見稲荷のお山めぐり(4Kmほどの坂道や石段の参道を2時間ほどで一周する正式参詣コース)は、毎年お参りするが 2024年正月のお参りで、初めて「御膳谷」の霊石「御饌石」(写真の木の柵囲いの中の石)にお酒を供える神事の看板に気づいた。(新しくたった看板?)
- 1月5日に、中汲み酒を「斎土器」(いみどき、盃状の素焼きの器)に入れて供えるそう。お土産で、その斎土器が売られていた。



- (上: 蔵元のお稲荷さん) 無数にあるお稲荷さんの中の一つ、「福德大神(稲荷)」。清酒の福德長さんが自社名を冠してお祀りされたのだと思う。(現在はオエノ傘下の福德長酒造だったのは1960年代までなので、それ以前にお祀りされたもの。) これは一ノ峰にあるのでわかりやすい例だが、探せばほかにも蔵元名のお稲荷さんがある。伏見稲荷には実に様々な名前のお稲荷さんがある。
- (右: 伏見稲荷のお神酒) お山めぐりのルート上には10軒以上の茶店が点在する。多くが独自の「お神酒」が売っているので、10銘柄ぐらいはあると思う。写真は「薬力社」(山本家)と月桂冠。本来は、信心するお稲荷さんにお供えするために売られているお神酒だが、デザインが良いのでお土産に買い求め、自宅で飲ませてもらいました。



神社仏閣とお酒 in Japan



明日香の酒船石@奈良

- 最後に、神社でも仏閣でもない、古代遺跡の「酒船石」。日本書紀にも登場するのだそう。
- 巨大な石に、窪みや溝が刻んである。「最初の窪みで搾った酒を3区分し、次の窪みで副原料を足して」、...と想像は膨らむが、実際にどう使ったのかまったく不明。手塚治虫のマンガ「三つ目がとある」にも「酒船石」がでてくる。
- 下の「亀形石造物」は、「酒船石」のすぐ近くで近年見つかったもので、酒船石遺跡群の一つと見なされている。これも用途不明だが、実用ではなく祭祀に使ったと見られる。



pictures are taken by t. kita
unless otherwise credit noted

神社仏閣とお酒 in Japan

京都の松尾大社

- 朝鮮半島から渡来した秦一族が松尾山を奉り、社殿を建立した年→「701年」

島根の松尾神社

- 「酒造り発祥の地」(案内板)
- 佐香神社が登場(出雲国風土記)→「733年」
- お祭り→「10月13日」

兵庫の庭田神社

- 「日本酒発祥の地」(駐車場の表示)
- 庭田神社が登場(播磨国風土記)→「713年」

奈良の春日大社の酒殿(さかどの)

- 記録の初見→「750年」

奈良の正暦寺

- 「日本清酒発祥之地」(石碑)
- 菩提酛の登場(御酒之日記)→「1355年と1489年の二説」
- お祭り→「1月10日」(ただし、新しいお祭り)

兵庫の伊丹

- 伊丹市にある「清酒発祥の地」(石碑)

岐阜の白川八幡神社

- 始まりは和銅年間→「708~714年」
- お祭り→「10月14・15日」

大分の白髭田原神社

- 和銅3年→「710年」
- お祭り→「10月17・18日」

← これまでの黄色の貼り紙を集めると、共通点がある。

1. 「神社の酒造りの始まりは700年代」
2. 「神社のお酒の祭りは10月15日前後」
3. 「酒発祥の地」を名乗るのは、今のところ全国4箇所

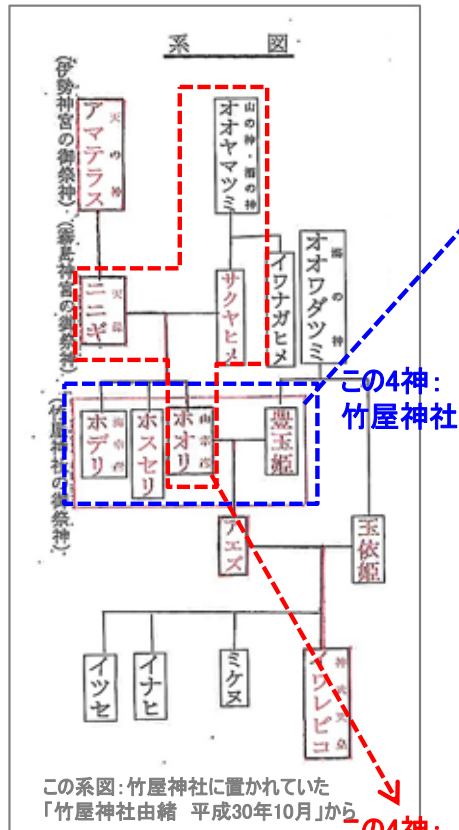


醸造協会誌2015年9月号に寄稿した文で、「寺院の酒・神社の酒」について書いています。



- 「松尾大社」から桂川を渡って、東に徒歩15分ほどの至近距離にある。「松尾大社」も「酒の神様」だが、こちら「梅宮大社」は入口看板に「日本第一酒造の祖神」とある。これだけ近い2つが両方とも酒の神様とは、古(いにしえ)には何かつながりがあったのかもしれない。
- 「酒解神(さかとけのかみ)」「酒解子神(さかとけのこかみ)」など4神を祭る。「酒解子神」が大若子神と一夜の契りで子供を授かったので、喜んで酒を醸したという神話から、造酒と安産の神様。
- 山門の上に菰(こも)樽のお供えがあるのは珍しい。白鶴、月桂冠、黄桜、剣菱、白鹿、大関、日本盛、沢の鶴、菊正宗など。灘伏見の銘柄だった。





この系図: 竹屋神社に置かれていた
「竹屋神社由緒 平成30年10月」から

この4神:
前ページの京都・梅宮大社



- 竹屋神社は「焼酎の神社」と言われる。焼酎蔵元が日本一多い(約100社)鹿児島県、南に2本突き出た半島の西側の薩摩半島の南さつま市にある。南さつま市だけで、7つの焼酎蔵元がある。
- 「竹屋」とかいて「たかや」と読む(旧名の鷹屋大明神からだろう)。系図の通り、お祀りしているのはアマテラスの孫(あるいは、神武天皇の祖父母)である3皇子と、3皇子末弟の妻の計4神。3兄弟がそれぞれ初留・中留・後留を司り、末弟の妻が海外由来の技(蒸留技術やサツマイモ)を司る。
- 3皇子の母、木花咲耶姫(コノハナサクヤヒメ)は、酒の神と言われるオオヤマツミの娘。一夜で子を孕んで夫のニギノミコトに疑いをかけられた。疑いを晴らすため、「日の御子なら火に焼かれることはない」として、土で塗り固めた室に入り、外に火を放った中で3皇子を産み落としたそう。3皇子の名前、ホデリ(火でり)→ホスセリ(火すせり)→ホオリ(火をり)は火の勢いを指すので、初留・中留・後留となる。
- このストーリー、前ページの京都の梅宮大社と重なる(看板の文書参照)。ただし、3皇子でなく、末弟の彦火火出見命(ヒコホホデノミコト)、別名火折命(ホオリノミコト)しか出てこないし、焼酎でなく清酒である。





竹屋神社
たかやじんしゃ

一、御祭神 中央本宮
彦火火出見命(別名を火折命)皇祖の祖先神 神話での山幸彦
豊玉姫命(火折命の妻で海神綿津見神の娘)
火閼降命
火明命(別名を火照命) 神話での海幸彦
火閼降命
火明命(別名を火照命) 神話での海幸彦

二、神格(神としての資格)
彦火火出見命 山の神 穀霊神 漁業の神 稲穂の神(農業の神)
豊玉姫命 海宮の神 水の神 聖母神
火明命 海の神 太陽神 農業神
火閼降命 不明 阿多隼人の祖先とも言われている

三、神徳(利益)
四、神社の建立
この神社は当初竹屋ヶ尾の麓内山田無敵野にあったものを、「宮原」の皇孫三皇子の居住地に移したもので建立は約一千年前と言われている。棟札に慶長十五年(一六〇八年)六月十四日再興、表に応保元年(一六二一年)七月七日建立とある。少なくとも今から八五七年前となる。神社参道入口は正面道路一キロ先の国道226号線交差点加世田自動車学校側で鳥居のあった記念碑がある。

平成一〇年十月 宗教法人 竹屋神社

鎮座地 鹿児島県南さつま市加世田宮原二六〇番地

氏名 加世田郷惣社 鷹屋大明神

祭神 彦火火出見命(別名を火折命)皇祖の祖先神 神話での山幸彦
豊玉姫命(火折命の妻で海神綿津見神の娘)
火閼降命
火明命(別名を火照命) 神話での海幸彦

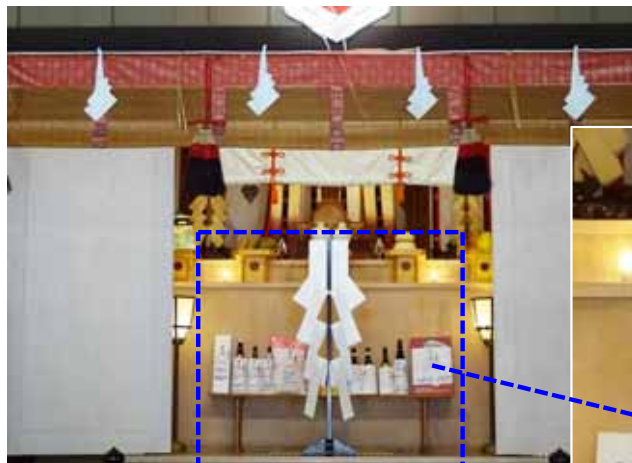
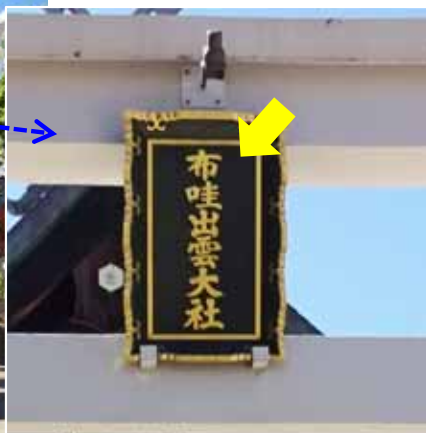
祭天孫「三子ノ尊」と「木花咲耶姫」の子供の三皇子(三柱)と豊玉姫の四柱(日本国の建立に係る命、四柱を祀っているのは当社社だけである)

- 焼酎の蒸留技術が琉球から薩摩に伝わったのは15~16世紀。3皇子すべてが、「火(ほ)」にちなむ名前であるのはもっと昔からだったはずで、初留・中留・後留に当てはめて焼酎の神としたのは後世の事だろうと推測せざるを得ない。が、誠にうまくあてはめたものである。
- 由緒書きによれば、この神社は千年以上前の建立で、現在の建物には「1161年造立1610年再興」という棟札があるそう。記録のために由緒の、パンフレットや看板も収載しておきます。
- 石の写真は、本殿後ろの山にある「磐境(いわさか)」と呼ばれる遺跡。ホオリノミコトと妻の豊玉姫の御陵ともいわれる。パンフレットによれば「亀形の大岩石。昭和5年、東大の博士が調査し、ドルメンの笠石で、日本最古の古代人の信仰上の対象物だと発表」とある。確かにこの角度でみると、明日香の亀石(本資料23ページの新発見の亀形石ではなく、昔からある亀石)に似ている。明日香の亀石も建造時期不明である。
- この竹屋神社は、2020年1月、鹿児島県の取引先を年始挨拶で訪問する途中に立ち寄った。市街地や国道から相当離れた場所で、平日だったこともあり、他に参拝者はいなかった。



神社仏閣とお酒 in Japan in Hawaii, USA

はわい 布哇出雲大社@ホノルル



- 2017年、ホノルルの出雲大社にお参りした。1906年創祀の、島根の出雲大社の分社である。ワイキキから車で10分ほど。
- 神社はお酒がお供えしてあるのが普通である。ただ、先述した通り、出雲の出雲大社（と、伊勢の伊勢神宮）はあまりにも格式が高いせいか、一般の神社のように本殿にお供えの酒はないし、境内にもお供えの菰樽がない。が、ハワイの出雲大社にはお供えがあった。観察すると、日本製の一升壇のサケ、カリフォルニア製の1.5Lマグナム壇のサケなど。
- ハワイとはいえ、神社のお供えは、まずはサケ。酒壇2本を紐でくっつけてひとまとめにする方式は、日本でできる酒屋さんが今や少ないのではないか。
- 拝殿の横に売店があって、ホノルルマラソンの完走祈願のお守りなども売っているが、お神酒は売っていなかった。（あればよく売れるだろう。）
- お供えのサケ銘柄はのし紙で見えなかったが、神殿横にあったサケの空き壇は（写真に撮らなかったが）、「宝正宗」が多かった。
- ハワイ諸島にはかつてたくさんの清酒酒造会社があった。一番長く続いたのは1908年創業のホノルル酒造で、禁酒法時代・第二次大戦中も生き抜いたが、1986年に宝酒造に買収され、カリフォルニアの宝USAに統合された。買収後もしばらくはハワイの清酒醸造を続けたが1992年にそれも終わった。ただ、ホノルル酒造の銘柄「宝正宗」は現在もカリフォルニアで宝USAがつくっている。
- 2020年、ホノルルに新しくクラフトサケ醸造所が開業した。そのうち、ホノルル製のお供え酒も見られるだろう。



pictures are taken by t. kita
unless otherwise credit noted

picture source : Takara Sake USA

神社仏閣とお酒 in Japan

あさま つま 「浅間神社@山梨」と「都万神社@宮崎」



picture source : web

この2つは訪問したことがないけれど、収載。どちらもコノハナサクヤヒメが祭神であるのは、前掲の梅宮大社、竹屋神社と同じである。

- **山梨の「浅間神社」**(甲斐国一之宮神社)では、毎年3月にコルク供養祭があるそうだ。1年間に回収箱で集めた数千個のワインのコルク栓を、祭りで燃やして(焚き上げて)供養し、合わせてブドウ収穫やワイン醸造の無事も祈る。
- 浅間神社の祭神が酒の神、コノハナサクヤヒメなので2001年に一宮町ワイン会がはじめたそうで、今では10社以上のワイナリーが参加している。
- 浅間神社境内には、2002年に植えられたコルク樹があるそうだ(写真)。コルク樹は、山梨大学ワイン科学研究センターにもあるが、日本では珍しい。(山梨大学ワイン科学センターのコルク樹は、2023年の建物増設に伴い、残念ながら伐採されました。240708追記)
- 実は、西宮の私の自宅にもコルク樹が一本ある。以下の9ページ参照。

http://www.kitasangyo.com/pdf/e-academy/caps-and-corks/cork_nostalgia.pdf



Cork tree @ Asama Shrine
picture source : web



Cork tree @ The Institute of Enology and Viticulture
University of Yamanashi
picture source : web

ed.4.2 で文章改筆

- **宮崎の「都万(つま)神社」**もコノハナサクヤヒメを祭神とする。奈良の正暦寺、島根の佐香神社、兵庫の庭田神社の3つに「お酒の発祥地」の碑があることは書いたが、この神社にも「日本清酒発祥の地」という標柱があるそうだ。神社仏閣でお酒の発祥4つめである。
- この地は、コノハナサクヤヒメとニギノミコトが出会った所と言われ、コノハナサクヤヒメが酒の神なので、「日本清酒発祥の地」なのだそう。コノハナサクヤヒメは三皇子を出産したが、母乳だけでは足りなかったので、甘酒を造り乳代りとしたともいわれる。
- 「日本清酒発祥」というのは大言壮語すぎで、「日本酒発祥」くらいが無難に思えるが、、、いろいろな発祥地の主張があるのは日本酒の面白さといえる。



(end of report)